

大阪中之島美術館

2022年度開催展覧会のお知らせ

■2022年度開催の展覧会が決定

「大阪と世界の近代・現代美術」をテーマとするコレクションを核に、アートの新たな価値を提示する展覧会や多彩なイベントを開催して、発信力と創造力をもつプラットフォームとなることをめざし、2022年2月2日に開館する大阪中之島美術館（大阪市北区）。その2022年度に開催する展覧会のラインナップ（下記）をお知らせします。つきましては、各展覧会の告知についてご協力賜りますようお願い申し上げます。

【2022年度開催展覧会ラインナップ】

① モディリアーニ ―愛と創作に捧げた35年―	2022年4月9日- 7月18日
② みんなのまち 大阪の肖像	2022年4月9日- 7月3日 [第1期] 明治・大正・昭和初期 2022年8月6日- 10月2日 [第2期] 戦後復興期から21世紀へ
③ 岡本太郎（仮称）	2022年7月23日- 10月2日
④ ロートレックとミュシャ パリ時代の10年	2022年10月15日- 2023年1月9日
⑤ すべて未知の世界へ-GUTAI 分化と統合	2022年10月22日- 2023年1月9日
⑥ 大阪の日本画（仮称）	2023年1月21日- 4月2日

■モディリアーニ ―愛と創作に捧げた35年―

【概要】

アーモンド形の眼をした優美な女性像で知られるアメデオ・モディリアーニ（1884 - 1920）。イタリアからフランスに渡り、エコール・ド・パリの一員としてピカソや藤田嗣治などと共に活躍した彼は、短い年月に芸術家としてあふれる個性と才能を発揮しました。没後100年を超えた今もなお世界中で愛好されているモディリアーニの、国内では14年ぶりとなる回顧展が2022年春、大阪で開催されます。

本展覧会では、国内外の美術館やコレクターが愛蔵するモディリアーニ作品とともに、盟友たちがパリで繰り広げた多彩な芸術の動向を紹介し、1910年代のパリを舞台に開花したモディリアーニの世界を堪能していただけます。

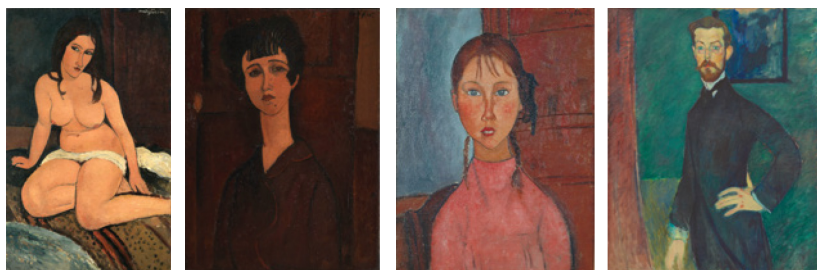
【展覧会名】開館記念特別展 モディリアーニ ―愛と創作に捧げた35年―

【会期】2022年4月9日（土）- 7月18日（月・祝）

【主催】大阪中之島美術館、読売新聞社

【会場】大阪中之島美術館 5階展示室

【主な出品作品】



(左から) 《座る裸婦》 1917年 アントワープ王立美術館蔵 photo: Rik Klein Gotink, Collection KMSKA - Flemish Community (CC0) | 《若い女性の肖像》 1917年頃 テート蔵 Photo © Tate | 《おさげ髪の少女》 1918年頃 名古屋市美術館蔵 | 《ポール・アレクサンドル博士》 1909年 東京富士美術館蔵

■みんなのまち 大阪の肖像

【概要】

「みんなのまち 大阪の肖像」は、待ちに待った開館を記念して、美術館が誕生するこの都市「大阪」をテーマとする展覧会です。明治から現在へと時代が移り変わる中で、大阪は近代都市へと成長し、戦禍を耐え、そして世紀を超えてなお活気あふれる「水の都」であり続けています。

本展覧会は、絵画、写真、ポスターをはじめ、大阪中之島美術館の多岐にわたるコレクションを中心に、大阪府市内外の博物館・美術館や企業などからの出品を加え、大阪の魅力を広く深く掘り起こします。過ぎし日の大阪に「懐かしさ」を感じていただくこともあるでしょう。または毎日通り過ぎる街並みの中に「まだ知らない大阪」を発見する機会となるかもしれません。過去約1世紀半の間に大阪が見せた多彩な“肖像（かお）”をご紹介します、大阪をめぐる時空の旅へと皆さんをいざないます。

【展覧会名】開館記念展 みんなのまち 大阪の肖像

【会期】 [第1期] 明治・大正・昭和初期：2022年4月9日（土） - 7月3日（日）

[第2期] 戦後復興期から21世紀へ：2022年8月6日（土） - 10月2日（日）

【主催】大阪中之島美術館

【会場】 [第1期] 大阪中之島美術館 4階展示室、 [第2期] 大阪中之島美術館 5階展示室

【主な出品作品】



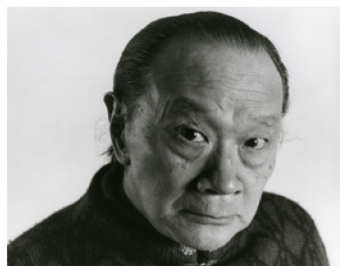
(左から) 国枝金三《中之島風景》 1927年 大阪中之島美術館蔵〔第1期〕 | 早川良雄《第11回秋の秀彩会》 1953年 大阪中之島美術館蔵〔第2期〕 | 松下電器産業株式会社《ナショナルテレビ 嵯峨 (TC-96G)》 1965年 パナソニックミュージアム蔵〔第2期〕

■岡本太郎（仮称）

【概要】

1970年日本万国博覧会のテーマ館《太陽の塔》で知られ、今日でも幅広い世代の人々を魅了する芸術家・岡本太郎（1911 - 1996）。この度、作家の芸術人生を振り返る、大回顧展を開催します。

1929年に渡仏した岡本太郎は、抽象表現に影響を受けながら画家としてのアイデンティティを確立していきます。帰国後、自らの芸術理念の核となる「対極主義」を提唱し、制作だけではなく『今日の芸術』、『日本の伝統』など文化・芸術論を展開。《太陽の塔》を頂点とするパブリックな空間に展開される巨体な彫刻や壁画など、生活の中で生きる作品群は、「芸術は大衆のものである」という岡本太郎の信念そのものを象徴し、それ故に没後もなお、多くの人々を惹き付けています。本展覧会は、岡本太郎の代表作を網羅しつつ、これまであまり注目されてこなかった晩年の作品なども紹介しながら、その生涯をたどります。《太陽の塔》だけではない、岡本太郎の全貌をぜひ大阪中之島美術館でお楽しみください。



【展覧会名】 特別展 岡本太郎（仮称）

【会期】 2022年7月23日（土） - 10月2日（日）

【主催】 大阪中之島美術館、公益財団法人岡本太郎記念現代芸術振興財団、
川崎市岡本太郎美術館、NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿

【会場】 大阪中之島美術館 4階展示室

■ロートレックとミュシャ パリ時代の10年

【概要】

本展覧会は、アンリ・ド・トゥールーズ＝ロートレック（1864 - 1901）とアルフォンス・ミュシャ（1860 - 1939）のパリ時代のグラフィック作品に着目し、1891年から1900年までの10年間に焦点を当て、その作品と活動を紹介するものです。ロートレックは1891年に第1号ポスター《ムーラン・ルージュ、ラ・グーリュ》を制作、その4年後、ミュシャも第1号ポスター《ジスモンダ》を発表しました。これを機に、いずれも時代の寵児として活躍しますが、ロートレックは1901年に亡くなり、ミュシャもまた同時期に活動の場を故郷チェコに移していきます。

本展覧会では、今日ますます評価が高まる2人の作品を合わせて紹介すると共に、わずか10年の内に制作されたロートレックの全ポスター作品31点を一堂に展示します。

【展覧会名】 ロートレックとミュシャ パリ時代の10年

【会期】 2022年10月15日（土） - 2023年1月9日（月・祝）

【主催】大阪中之島美術館

【会場】大阪中之島美術館 4階展示室

【主な出品作品】



(左から) アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《ディヴァン・ジャポネ》 1893年 | アルフォンス・ミュシャ《ジスモンダ》 1894年 | アンリ・ド・トゥールーズ=ロートレック《アンバサドール、アリストイド・ブリュアン》 1892年 | アルフォンス・ミュシャ《ムーズ・ビール》 1897年 すべてサントリーポスターコレクション、大阪中之島美術館寄託

■すべて未知の世界へ—GUTAI 分化と統合

【概要】

具体美術協会（具体）は、1954年に結成された美術家集団です。吉原治良という、絶対的指導者を中核にすえたこの集団は、1950年代から70年代にかけて、日本の前衛美術を牽引してきました。その活動の軌跡は国内外で注目を集め、戦後日本美術の原点として、なかば神話化されるにいたっています。

本展覧会は、具体の活動拠点「グタイピナコテカ」が建設された地、大阪・中之島で開催される初の大規模な具体展です。2022年2月に開館する大阪中之島美術館と、道路一本を隔てて隣り合う国立国際美術館。解散して50年の節目となる2022年、2館同時開催という類い稀な形式で開催される本展覧会は、「分化と統合」というテーマを掲げ、新しい具体像の構築をめざします。

【展覧会名】大阪中之島美術館 国立国際美術館 共同企画 すべて未知の世界へ—GUTAI 分化と統合

【会期】2022年10月22日（土） - 2023年1月9日（月・祝）

【主催】大阪中之島美術館、国立国際美術館、朝日新聞社（予定）

【会場】大阪中之島美術館 5階展示室、国立国際美術館 地下3階展示室

【主な出品作品】



(左から) 吉原治良《作品(黒地に白丸)》1967年 大阪中之島美術館蔵 | 白髪一雄《ミスター ステラ》1958年 大阪中之島美術館蔵 | 松谷武判《繁殖 65-24》1965年 国立国際美術館蔵 | 今中クミ子《赤と黄》1966年 油彩、ブリキ・発泡スチロール 国立国際美術館蔵

■大阪の日本画（仮称）

【概要】

大阪は商工業都市として発展を続けるとともに、東京や京都とは異なる文化圏を形成し、個性的で優れた芸術文化を育んできました。江戸時代からの流れをくむ近代大阪の美術は町人文化に支えられ、瀟洒でスッキリした作品から、滑稽で可愛らしいユーモアたっぷりの作品まで、伝統に囚われない自由闊達な表現が大きく花開いたといえます。とりわけ大正から昭和前期にかけては、画壇としての活動が隆盛を極め、多くの画家が個性豊かな作品を生み出しました。

本展覧会は、幕末から昭和に至る近代大阪の日本画に注目し、その魅力と活動実態を明らかにしようと試みるものです。上方の文学や芸能と同様、大阪ならではの特徴や視点、作品の奥に広がるさまざまな背景を浮き彫りにすることで、個々の作品の魅力、画壇の在り方を再認識する機会となることをめざします。

【展覧会名】大阪の日本画（仮称）

【会期】2023年1月21日（土） - 4月2日（日）

【主催】大阪中之島美術館（予定）

【会場】大阪中之島美術館 4階展示室

【主な出品作品】



(左から) 菅橋彦《赤日浪速人》1955年 大阪中之島美術館蔵 | 島成園《舞妓之図》1916年頃 個人蔵

* 2023年1月から開催予定の「サラ・モリス展（仮称）」は国際的情勢により開催延期となりました。新たな開催時期が決まりましたら、当館ホームページにてお知らせいたします。

■開館記念展覧会のお知らせ

既送のプレスリリースにてお知らせしておりますが、2022年2月2日の開館にあたり、下記の開館記念展覧会、展示を予定しております。こちらについても告知についてご協力賜りますようお願い申し上げます。

■Hello! Super Collection 超コレクション展 –99のものがたり–

【概要】

大阪中之島美術館のオープニングとなる本展覧会では、これまでに収蔵した6000点を超えるコレクションから代表的作品を選び、全展示室を用いて一堂に公開します。3つの章により当館の収集活動の特徴を紹介し、国内第一級の質を誇るコレクションについて存分にご堪能いただける機会といたします。

【展覧会名】大阪中之島美術館 開館記念 Hello! Super Collection 超コレクション展 –99のものがたり–

【会期】2022年2月2日（水）– 3月21日（月・祝）

【主催】大阪中之島美術館、NHK大阪放送局、NHKエンタープライズ近畿、読売新聞社

【会場】大阪中之島美術館 4、5階展示室

【主な出品作品】



（左から）佐伯祐三《郵便配達夫》 1928年 | アメデオ・モディリアーニ《髪をほどいた横たわる裸婦》 1917年 | 倉俣史朗《ミス・ブランチ》 デザイン1988年、製造1989年 すべて大阪中之島美術館蔵

■ホームビデオプロジェクト作品展示 | テールズアウト

【概要】

大阪中之島美術館では、開館イベントとして「みなさんの『ホームビデオ』を募集します！」と題し、ご家庭に残るホームビデオを募集しました。VHSやDVテープを中心に集まった合計250本超の映像から、林勇氣、荒木悠、柳瀬安里の3人が新たな作品を制作。タイトルのもとになっている「テールアウト」とは、収録済テープの最終部がテープの巻き終わりになっている状態で巻くことをいいます。ホームビデオの変化に見る時代の移りを、世代のことなるアーティストたちがそれぞれの着目点で読み取り、記録のその先にあるものを描き出します。

【参加作家（五十音順）】

荒木 悠（あらかき・ゆう） | 林 勇氣（はやし・ゆうき） | 柳瀬 安里（やなせ・あんり）

【展覧会名】 ホームビデオプロジェクト作品展示 | テールズアウト

【会期】 2022年2月2日（水） - 3月21日（月・祝）

【主催】 大阪中之島美術館

【会場】 大阪中之島美術館 2階多目的スペースほか館内

【参考リンク】 [みなさんの「ホームビデオ」を募集します！*募集は終了しました！大阪中之島美術館](https://nakka-art.jp/event-post/)

URL: [https://nakka-art.jp/event-post/「みなさんの『ホームビデオ』を募集します！」/](https://nakka-art.jp/event-post/)

広報に関するお問い合わせ先

大阪中之島美術館「広報事務局」担当：平・山本・東森

TEL: 06-6479-0560 Email: pr@nakka-art.jp

〒530-0005 大阪市北区中之島4-3-1

URL: <https://nakka-art.jp>